

市川専門委員 コメント

「日本学術会議の在り方」(中間まとめ)についての所見

< 科学者コミュニティー > の必要性

科学者のコミュニティーは必要である。しかしそれは科学者のコミュニティー(共同体)であるから多くの学会のように会員の会費により運営されるべきものである。寄付等を募るのも自由であるが、国による維持を期待するのはおかしい。国による維持を期待するなら、任務を背負った機能体であるべきで、コミュニティー(共同体)であってはならない。

日本学術会議の使命・目的

国として期待するのは1(1)だけであろう。1(2)~(4)は科学者のコミュニティーとして、ご自由にやることである。コミュニティーであるから、国としては1(1)について諮問し答申を得るという委託を行い、委託費を負担すればよい。

1

会員をCo-optationのみで選ぶことは老朽化に繋がり、称えている使命・目的を達成するのに適当でない。若手が入れるような仕組み、たとえば学会選出、をかなり大きい割合で共存させるべきであろう。国が委託する上でもこのことが必要である。

3

210人もの運営・執行メンバーでは、その意思決定は現在のように、時間がかかり、かつ決定が妥協の産物となる。現在と本質的に変わりはない。

4

国の機関とすることは、2で称えた独立性と矛盾する。また、コミュニティー(共同体)を国の機関とすることは論理的におかしい。